雄　飛

向陽高校進路便り　第80号
平成30年1月22日（月）
～進越超信～

２２期生センター試験まで
３２！

今から考える！AO 推薦、推薦入試ってどんなもの？

全大学の7割以上がAO入試を実施、早稲田大で「新思考入試」を導入

AO入試の実施率は全大学の 71.6%、全学部の 58.5%で、推薦入試と比べやや低く、AO入試による入学者数も全入学者の 8.8%に留まる（2015 年。2016 年以降は未発表のため）が、ここ2年間で増加傾向にある。2016 年以降、高校教育と大学教育の連続性（高大接続）を重視し、**多面的・総合的な評価を重視した選抜**を目指す 2020 年“入試改革”の先取りとして、AO入試が再評価されるようになったためだ。

国公立大では、2017 年度は大阪大が6学部で「世界適塾入試」としてセ試を課すAO入試を新規実施、お茶の水女子大もAO入試を「新フンボルト入試」にリニューアルし、募集枠を倍増（10 人→20 人）。私立でも、東京女子大でAO「知のかけはし入試」を新規実施した。

2018 年度もこの傾向は続き、国立大では千葉大 － 園芸、徳島大 － 薬、九州大 － 文などがセ試を課すAOを、東北大-医・歯、九州大-共創（新設予定）などがセ試を課さないAOを新規実施し、弘前大では4学部でAOの募集枠を大幅に拡大。私立大では、早稲田大が5学部でセ試を課す「新思考入試（地域連携型）」を新規実施、南山大 － 外国語でもAO入試を導入する。

国公立大AO入試の実施学部数の推移を見ると、**学力を担保する目的からか、セ試を課すAOがここ2年間で急激に増えた**のに対し、セ試を課さないAOはほぼ横ばいだ。

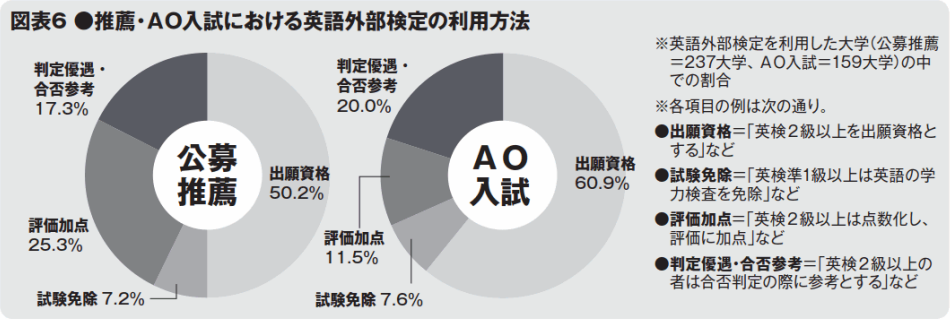
なお、推薦・AOともに、インターネット出願を導入する大学が増えている（2018 年度は、国立の静岡大・佐賀大・長崎大・熊本大、公立の北九州市立大の推薦・AO入試で導入予定）。

学業成績基準を重視する方向。英語検定試験利用が加速

AO入試の出願条件は、推薦入試と同じく学業成績、卒業年度（現浪）、併願の可否などだ。

学業成績基準は、北海道大 － 医（医）・歯、東北大 － 文・法・理・工（II期）・農（II期）、大分大-医（医）などで「学習成績概評A段階以上」。順天堂大-医（A方式）で「全体の評定平均値 4.5 以上」の基準を設けている（2017 年度入試）。以上は厳しい例で、AO入試全体の条件設定は私立大を中心にかなり緩やか。学業成績基準を設けていない大学が多いが、**近年は基準を新たに設けたり、高めたりする大学が増えた。**

また、4技能（読む、聞く、書く、話す）のバランスが取れた高い英語力を求めて、**英語外部検定（英検、TEAPなど）を出願資格として利用する大学・学部が増えた。**英語外部検定の利用のされ方は、推薦・AOとも「出願資格」が最も多い。また、推薦では「評価加点」も多い。



併願の可否は、「否」すなわち「専願」と制限する大学がほとんど。この点は推薦入試より厳しい。専願であることが前提条件の場合、**自分が本当に入学を希望する第1志望大学かどうかを見極めなければ**ならない。

「出願資格」とは別に、「入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）」の適否基準がある。AO入試では、特にこの**「アドミッション・ポリシー」との適合性が重視される**ので、注意しよう。入試要項などに「求める学生像」として、学部・学科のくわしい特定条件（高校で履修すべき科目、取得が望ましい資格など）が示されているので、注意深く読んでおくこと。

選考方法は「書類審査＋面接（面談）（注）」が中心

AO入試の選考方法を分類すると、およそ次の5つのパターンになる。

①書類審査（調査書＋推薦書＋志望理由書など）＋面接
②書類審査＋小論文（作文）＋面接
③書類審査＋学力試験＋面接
④体験授業（セミナー）＋書類審査＋面接
⑤エントリーシート＋面談＋書類審査＋面接

5つのパターンのうち、最も多いのが①の「書類審査＋面接」。また、⑤の「エントリーシート＋面談＋書類審査＋面接」は、私立大（特に中堅クラス）のAO入試の典型的なパターンだ。

面接・面談では、入学への意欲や目的、自分の将来性や可能性などを十分アピールしよう。

（注）面談は大学（面接者）と受験生が相互に質問し、理解しあうもの。面接は、提出書類に基づいて受験生に一方的に質問し、選考するために行うもの。正式出願前に面談、出願後に面接を実施する大学も多い。

エントリーシートは、面接（面談）へのパスポート

⑤のエントリーシート（エントリーカードとも）は、面接や面談の重要な資料として取り扱われる。その記入事項は**「役員歴（生徒会活動・部活動）」「活動実績（部活動・ボランティア活動）」「資格取得」「留学・渡航経験」「将来の希望職種」「自分の長所・短所」「入学後に学びたい分野」のほか、「志望理由」「自己PR」**など。

記入は各項目とも、できるかぎりくわしく書こう。大学側は記入内容から、キャリアを見るだけでなく、充実した高校生活をすごしたかどうかを判定する。特に「志望理由」「自己PR」の欄は、後日、別途提出する「志望理由書」「自己推薦書」本体のダイジェスト版にあたるので、内容の相違がないようにしっかり書くこと。

この記事は「螢雪時代（2017 年6月号）」より転載いたしました。

推薦入試	国公立大	公募制	**●一般推薦** 大半がこのタイプ **●特別推薦** 専門高校やそれに準ずるもの／スポーツ・文化／地域・課外活動／取得資格 **●出身地指定推薦** 特に公立大で多く実施（県内枠など） **●「地域枠」推薦** 医学部、教員養成学部で実施	**●出願** ほとんどの大学で全体の評定平均値 4.0 以上など／現役のみ／1校からの出願人数に制限のあるケースが多い／出身地の指定をするケースもある（特に公立大）	**●選考** 調査書・小論文・面接など。センター試験を課したり、小論文試験を実施したりして、各教科の基礎学力などの有無についてみられる	**●合格** 合格後の入学辞退は認められない
推薦入試	私立大	公募制	**●一般推薦** ほとんどの大学・学部で実施 **●特別推薦** 自己推薦／スポーツ／文化活動／取得資格／地域活動／一芸一能／専門高校枠 **●「地域枠」推薦** 医学部、看護学部で実施	**●出願** ごく一部の大学を除いて、全体の評定平均値は 3.0 ～ 4.0 の範囲内／浪人可の大学もある／1校からの出願人数の制限はあまりない	**●選考** 調査書を中心に、小論文・面接の両方または一方の組み合わせが多い。一部で、学科試験や基礎学力テストが課されることもある（特に関西地区で多い）	**●合格** 専願の場合は入学辞退を認められない／併願が認められるケースも増えている
推薦入試	私立大	指定校制	**●大学が指定した高校** 過去の入学実績などで大学が指定した高校からの出願に限定される **●系列校対象** 付属など、大学と同系列の高校からのみ出願できる **●高校内選考**	**●出願** 専願のみ／出願条件は指定校に直接連絡されるので、志望校が決まったら早めに先生に相談する／指定校制・公募制併用の場合、評定平均値はふつう指定校制が公募制より 0.2 ～ 0.3 高い	**●選考** 事前に高校内選考があるので、実際の選考は調査書が中心。その他は参考程度／倍率は比較的低いケースが多い	**●合格** 原則として入学辞退は認められない
AO入試			入試の名称や選考の形態は大学によってさまざま／出願後に面談をして合否を出すパターンや、エントリー後に面談をしてから、アドミッション・ポリシーに合致した受験生のみに出願を許すパターンなどがある	**●出願** 専願が多い／自己推薦による出願で、学校長の推薦は必要ない場合が多い／評定平均値の基準がないのが主／現浪の制限もあまりない	**●選考** 選考は長期間にわたることが多い／自己推薦書、志望理由書、活動報告書などを提出して書類審査が行われる／面接（個人面談・集団面接）がある。複数回行われることも多い	**●合格** 原則として入学辞退は認められない